

令和5年10月20日

市長記者会見

〔案件〕

公共施設の有効利用に関する市民アンケート結果について

公共施設ではどんなことをやってるの？

公共施設ってどのくらいコストがかかっているの？

**公共施設の有効利用について
考えてみませんか？**



1. 調査の概要

目的

「はちのへ大型公共施設見える化シート」の掲載施設を対象として、施設利用に関する市民ニーズを把握し、各施設の有効利用に向けた具体的取組の検討において参考とするため、幅広く市民の意見等を集めるもの。

◇対象施設 ①ブックセンター、②美術館、③はっち、④マチニワ、
⑤YSアリーナ八戸、⑥是川縄文館、⑦図書館、⑧博物館
(総合的な行政機関である市庁舎と総合保健センターは除く)

実施期間

令和5年6月15日(木)～7月7日(金)

対象者

市内公共施設に関心のある18歳以上の方 (市政モニター114人を含む)

回答者数

612人 (うち市政モニター96人)

2. 調査結果の概要 ①公共施設の満足度

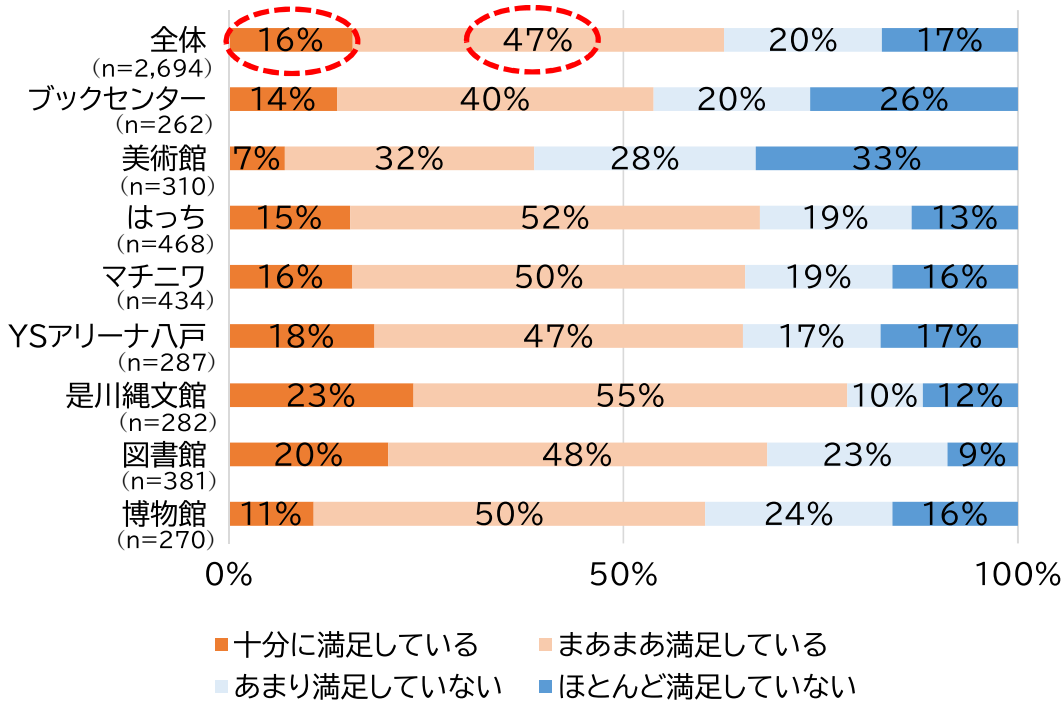
● 公共施設のサービスや利用方法に対する満足度平均＝“63%”

⇒ 住民福祉の向上に一定の効果がある

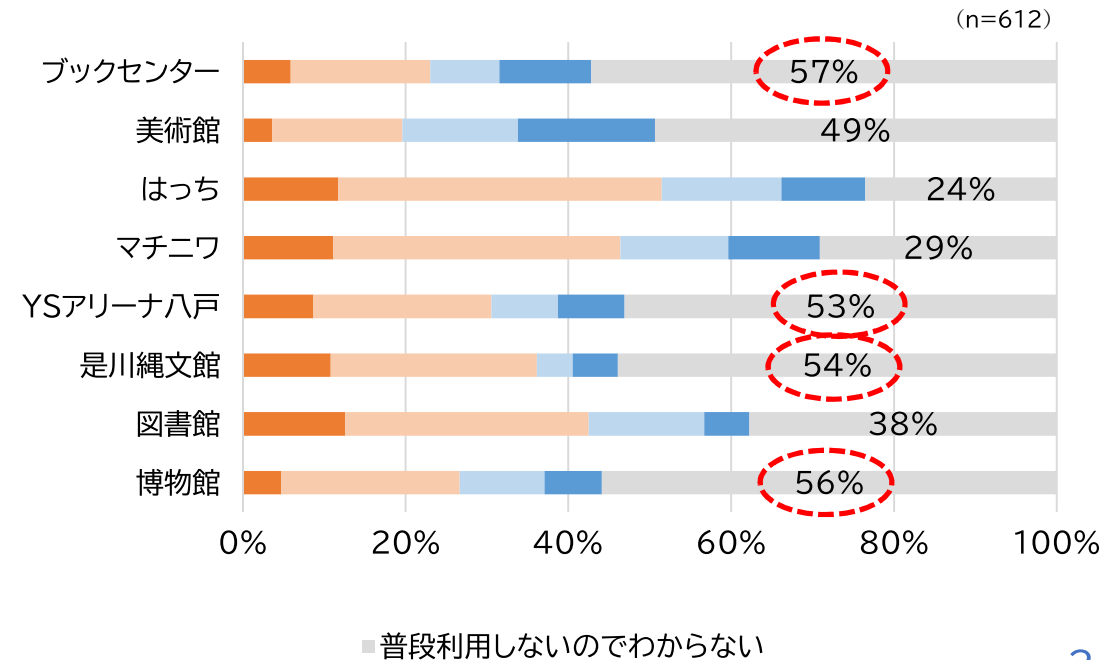
※ 一方で、「普段利用しないのでわからない」の回答も一定数

“そもそも利用する必要がない”と考えている層と、“興味関心はあるが利用しにくい”と考えている層があると考えられ、特に後者の層に対して利用を促すための工夫が必要

公共施設の満足度（「普段利用しないのでわからない」を除く）



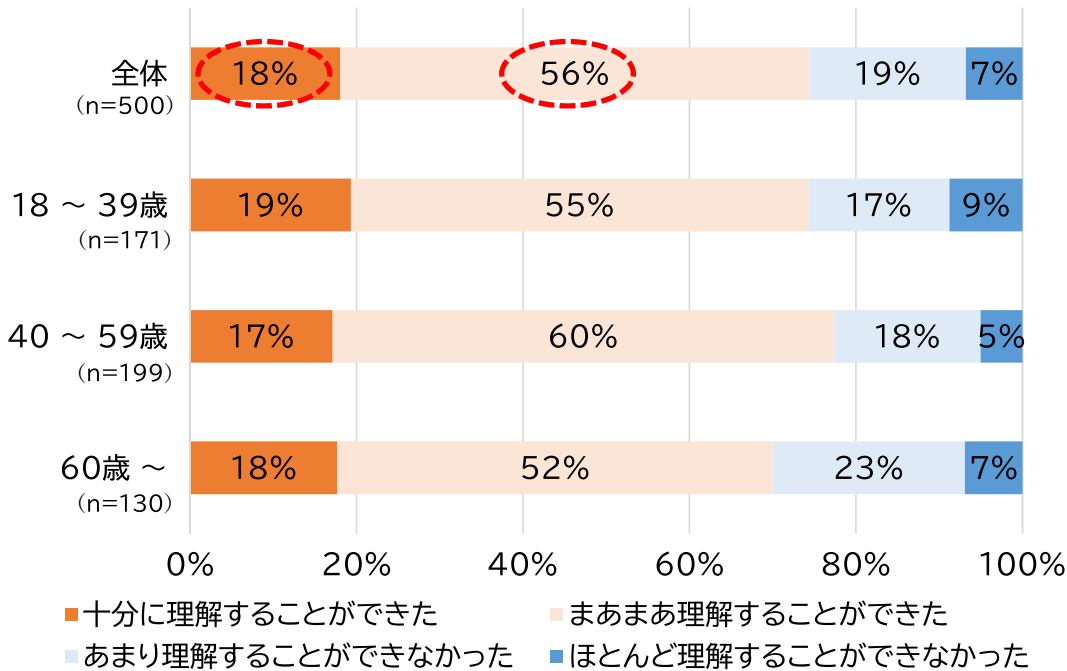
回答全数のうち「普段利用しないのでわからない」の割合



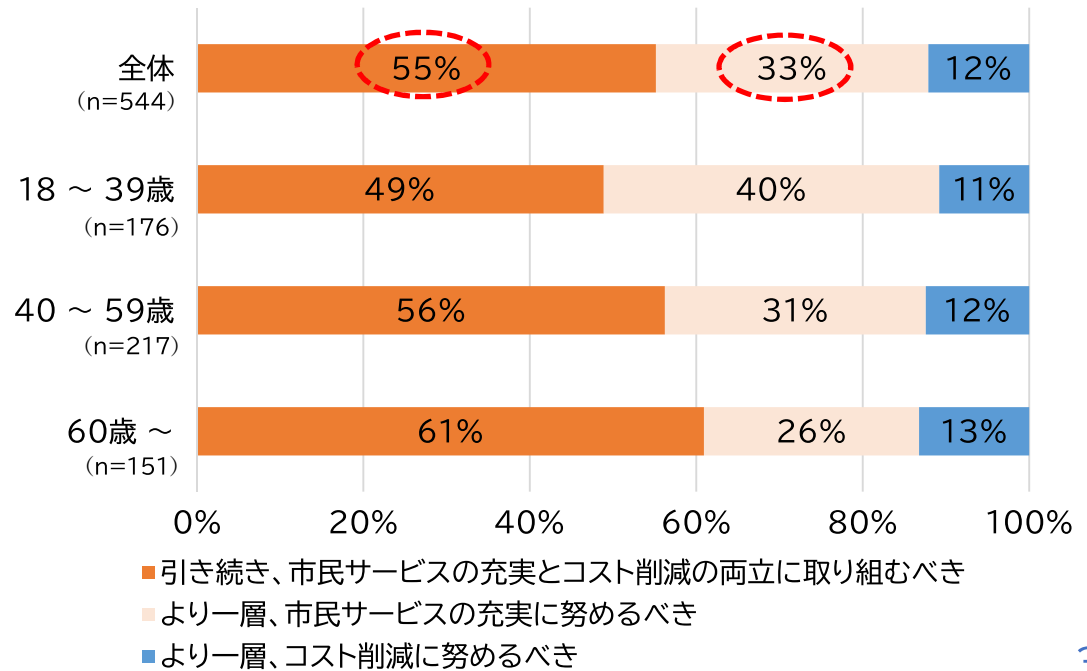
2. 調査結果の概要 ②「見える化シート」の理解度、③サービスとコストのバランス

- 「見える化シート」を通じた管理運営や取組状況の理解度 = “74%”
⇒ 「見える化シート」が公共施設の有効利用について考えるきっかけづくりに寄与できている
- サービス充実とコスト削減の両立、又は、より一層のサービス充実を望む = “88%”
⇒ 年代別に比較すると、若年層ほど更なるサービス充実を求める声が多い

見える化シートの理解度
（「分からない又は判断できない」を除く）



市民サービスと施設運営費のバランス
（「分からない又は判断できない」を除く）

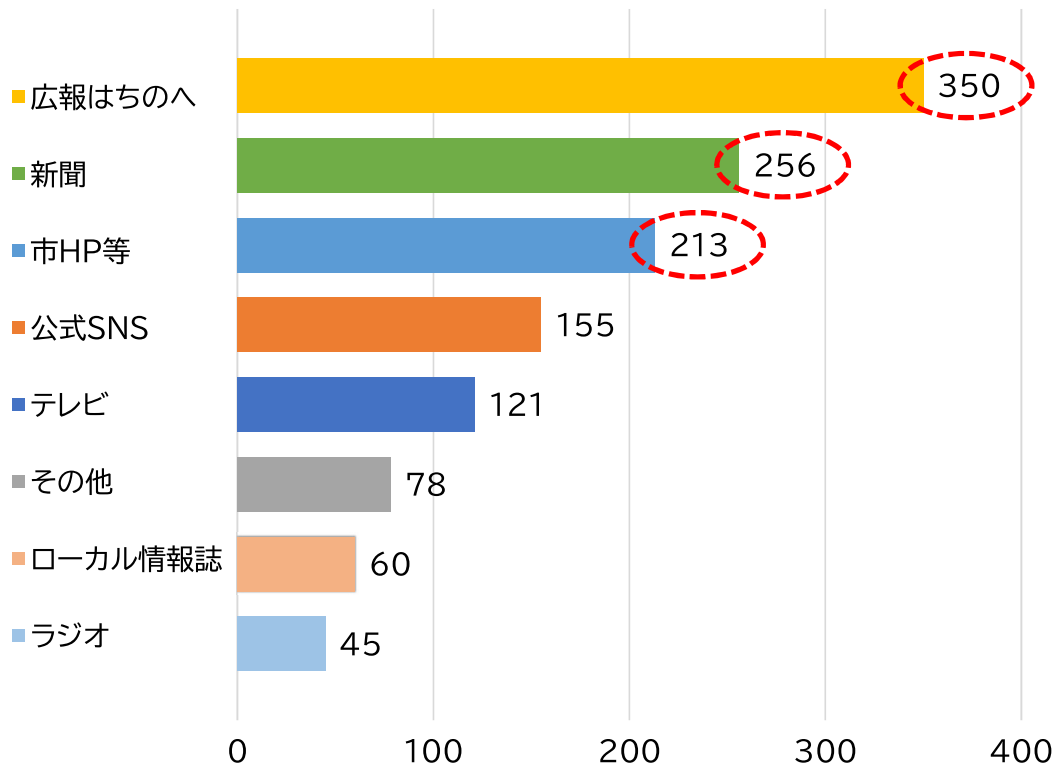


2. 調査結果の概要 ④イベント情報等の入手方法

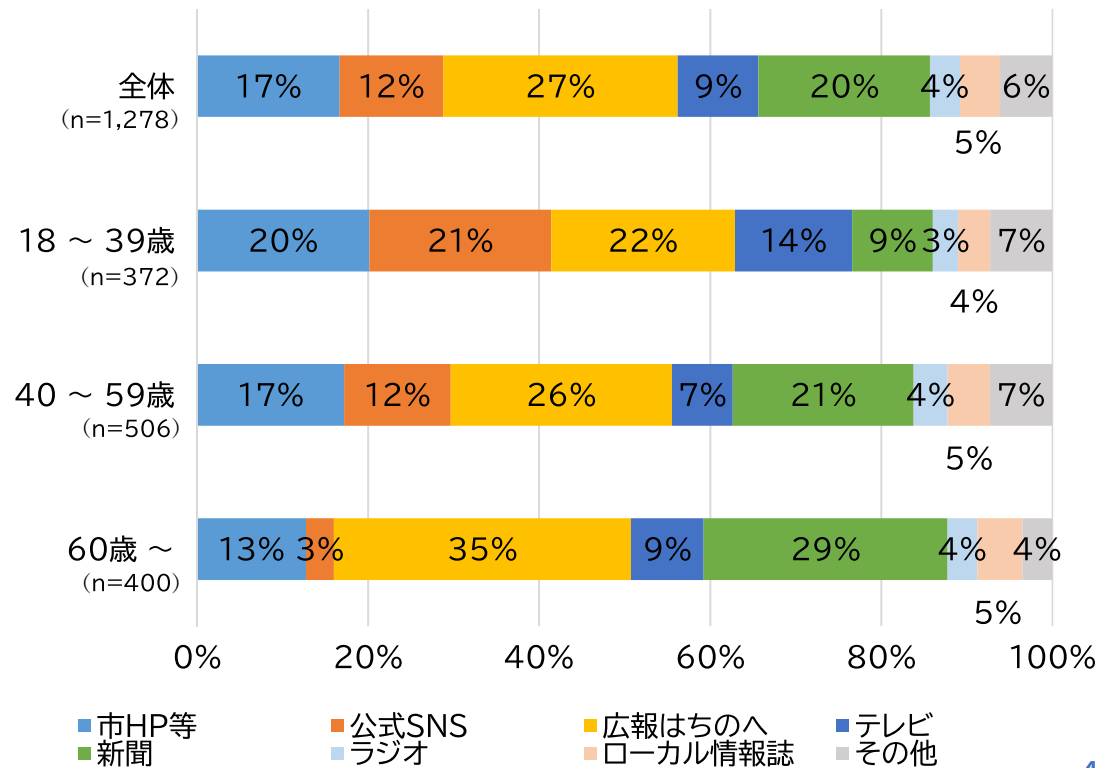
● イベント情報等の主な入手方法＝“広報はちのへ”、“新聞”、“市ホームページ”

⇒ 年代によって傾向が大きく異なるため、ターゲットに適した手段・媒体で情報発信を行うなど、効果的な情報発信手法について意識することが重要

イベント情報等の入手方法(人) ※複数回答可 (n=612)



年代別にみたイベント情報等の入手方法の割合



2. 調査結果の概要 ⑤施設利用に関する代表的・特徴的な意見

- | | |
|----------|---|
| ブックセンター | <ul style="list-style-type: none">コアなイベントばかり開催しているイメージがあり近寄りづらい。子どもが楽しめるイベントも開催してほしい。専門的過ぎて本を身近に感じられない。ごく限られた人だけが利用するところのように感じている。 |
| 美術館 | <ul style="list-style-type: none">全国的に知名度のある企画や、わかりやすい展示をしてほしい。特徴あるモニュメントやオブジェを置き、市民に愛着を湧かせるべき。 |
| はっち | <ul style="list-style-type: none">展示もずっと変わらないままで面白みに欠け、マンネリ化している。親子で楽しめる箇所、子供が遊べる場所が、こどもはっちだけではなく他の箇所にももっとほしい。 |
| マチニフ | <ul style="list-style-type: none">イベントの魅力が幅広く伝わっていない。イベント情報はどこで入手できるのかが分からない。集客できるフードフェス、本のまち八戸を活かしたイベント、クラフトフェア、マルシェ等開催して活気創出して欲しい。 |
| YSアリーナ八戸 | <ul style="list-style-type: none">竣工記念音楽フェスのような音楽イベントを開催してほしい。各種全国大会規模のメイン会場に使うなど、外部の協力を得て有効活用を図るべき。 |
| 是川縄文館 | <ul style="list-style-type: none">世界遺産登録を機に縄文が注目されているため、ソフト面の企画の実施や、三内丸山遺跡など他地域の遺跡と連動したツアーなどを開発してもよい。開放された公園、飲食スペースがあっても良い。 |
| 図書館 | <ul style="list-style-type: none">全体的に老朽化が目立っている。傷んでいる本があるなど、蔵書の古さが目立つ。食事を取れるお店等がまわりになく、一日ゆっくり利用することができないため、カフェ等を併設してほしい。 |
| 博物館 | <ul style="list-style-type: none">展示内容がほとんど変わらずマンネリ化している。展示をリニューアルしてほしい。もっと面白い企画やタイアップ、コラボ企画を期待したい。(大河ドラマやお宝鑑定団等) |

3. 有効利用に向けた検討の方向性 (1/2)

(1) “市民ニーズ”に沿った施設運営

本アンケート結果を各施設と共有しながら、市民のニーズや期待に応え、施設の意義を実感できるような具体的取組について検討し、可能な部分から見直しを進めていく。

～取組イメージ～

- ・ 選書の見直しや、親子連れ・子ども向け企画の実施（ブックセンター）
- ・ 新しいかたちの美術館のコンセプト浸透と、展覧会等の充実（美術館）
- ・ 恒例となるような大規模イベントの誘致（YSアリーナ八戸）
- ・ 展示リニューアルや施設設備の改修（博物館、図書館）

(2) “理解と共感”を得るわかりやすい情報発信

施設の利用方法やイベント情報などさらなる情報発信を求める声が多いことや、「普段利用しないのでわからない」の回答が一定数あり、興味関心はあるが利用しにくいと考えている層に対して利用を促す工夫が必要であることから、市民の理解と共感を得られるよう、広くわかりやすい情報発信に努めていく。

～取組イメージ～

- ・ AIを活用したイベント情報集約サイトの構築によるイベント情報の一元化
- ・ リニューアルした八戸市公式LINEとイベント情報集約サイトの連携による配信機能の強化

3. 有効利用に向けた検討の方向性 (2/2)

(3) “施設間連携”や“事業間連携”による相乗効果の発揮

各施設における取組の充実に加えて、デジタル技術を活かした施設間連携の取組や、中心市街地活性化の取組と連携したデータ分析に基づく効果的なイベントの実施など、施設間や事業間の連携により相乗効果の最大化を図っていく。

～取組イメージ～

- AIカメラの人流データを活用した中心街イベントの効果分析
- はちのハポイントのアプリ化と、駐車場割引システムとの連携による中心街への誘客推進

(4) “公民連携”による公共施設の有効活用

維持管理コストの適正化に努めながら、更なる市民サービスの向上を図るためには、指定管理者制度への移行に加えて、民間提案の募集など企画段階からの民間事業者との連携が有効と考えられることから、多様な公民連携手法について研究していく。

～取組イメージ～

- トライアル・サウンディングの実施
(民間事業者等が社会実験的にカフェスペースを設置するなど、施設の暫定利用を通じて事業化につなげる公民連携手法)
- 指定管理者制度への移行等による市民サービスの向上とコスト削減

4. 有効利用に向けた取組の推進

アンケート結果を踏まえた取組の推進

- ◆ R5年度中に可能な部分から見直しに着手、予算化が必要な場合はR6年度当初予算に計上
- ◆ 取組イメージの具体化に向けては、公共施設マネジメント庁内連絡会議等を通じて関係機関と調整を行いながら、取組内容の充実や精緻化を図っていく

～検討の方向性～

“**市民ニーズ**”に沿った施設運営

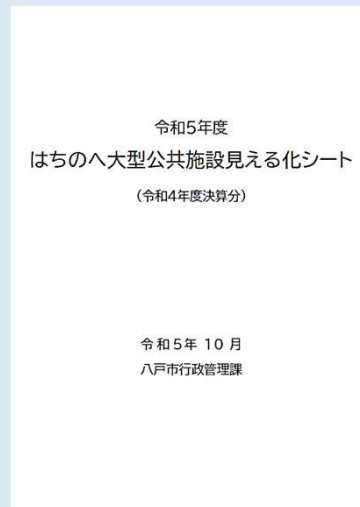
“**理解と共感**”を得るわかりやすい情報発信

“**施設間連携**”や“**事業間連携**”による相乗効果の発揮

“**公民連携**”による公共施設の有効活用

見える化シート(R4決算分)の公表

- ◆ 市HPや市広報等を活用した積極的な周知
- ◆ 市民との継続的な情報共有
- ◆ 職員研修への活用等によるコスト意識の向上



施設の有効利用を図ることによる費用対効果の向上と公共施設に対する理解の深化